

英語と日本語とカクチケル語の音節構造第二部 (Syllable structure in English, Japanese and Kaqchikel - Part 2)

講演者：那須川訓也 (Nasukawa, Kuniya)
(東北学院大学)

要旨: 単語を構成している単音よりは大きい、単語よりは小さい音連続の束を一般的に「音節」と呼ぶ。音節は、音節核(nucleus)とその前後に選択的に生じる非核(non-nucleus)から形成されている。音節核の位置に現れることができる音は通常母音であり、短長の違いはあるものの、その数はひとつと考えられている。これに対して、核の前後の非核位置に表出可能な子音の数は言語により異なる。さらに、この選択的である非核位置の音韻表示は理論により大きく異なる。本講演では非核位置の中でも尾子音(coda)に焦点を当て、理論的にどのような音節構造が妥当であるかを論じる。その上で、異なる語族に属する3言語(英語、日本語、カクチケル語)の音節構造を比較し、それらの類似点ならびに相違点を類型論的観点から論じる。

日程：2013年7月29日（月曜日）午後6時15分～午後7時45分（6コマ目の授業時間帯）
場所：名古屋大学全学教育棟・北棟405号室 <参加自由・無料>